

## 『日本のC型肝炎蔓延は社会的要因が原因！』

肝臓川柳

『社会的 蔓延、今は 撲滅へ』



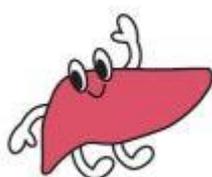
(C型肝炎は社会的要因で蔓延したが、今は社会的に撲滅へ動いている)

.....ノノノノノ

11/5 国立国際医療研究センター溝上雅史先生の大変興味深い講演がありました  
(第22回肝疾患診療従事者研修会)

独特の解析(HCV遺伝子変化から分岐時間推測)により、  
日本にC型肝炎が入ってきたのはシーボルトらによる西洋医学が始まった1890年  
初期拡散が、日本住血吸虫の注射治療が多くなされた1920年頃  
後期拡散が、戦争後覚せい剤注射乱用があった1950年前後、と推測されます

いずれも注射操作によるHCV血液感染が爆発的に広まったのが原因ですが、  
その元は社会的要因(病気の治療、戦争)によるとのことです。  
世界中多くの地域でのC型肝炎蔓延も同じく社会的要因が大きく関わっています。  
日本の脇田先生の発明により2005年にC型肝炎ウイルスが試験管で増殖可能となり、  
抗HCV薬のスクリーニングが可能となってから、飛躍的に抗HCV薬が進歩し現在に至って  
おり、今やC型肝炎撲滅が可能となっています。



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

C型肝炎の広がり、病気の治療や戦争などの社会的要因が原因と言われている。  
しかしながら、日本人の発明等により、飛躍的に抗HCV薬が進歩し、  
今やC型肝炎撲滅が可能な所まで来ている。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)